



特定非営利活動法人日本防災士会 富山県支部

# 富山県防災士会会報

第 10 号

平成 26 年 10 月 31 日  
発行 富山県防災士会  
連絡先 090-5173-7430  
(事務局：黒畑)

## 平成 26 年度富山県市町村総合防災訓練 延べ 130 名余の会員が参加

7 月 27 日の上市町を皮切りに、高岡市、砺波市と続き 9 月 28 日の射水市を最後に、県内の 16 自治体（富山県と 15 市町村）のうち、8 つの総合防災訓練（10 市町会場）に延べ 130 名余の防災士が参加しました。

（立山町の訓練は台風 19 号の影響で中止）

今年度は、「自助～自ら備える防災・減災対策」をテーマに、従来の災害パネル、都市圏活断層図、家具転倒防止器具展示などのほかに、災害時に役立つ簡易トイレの作成や新聞紙でのスリッパづくりなど、参加・体験型を中心に啓発活動を展開しました。



富山県総合防災訓練・黒部会場

多くの県民の方々が関心をもたれ、一層の減災、防災意識が高まったようでした。とりわけ射水市では、金山保育園と金山小学校は、当日の日曜日を登校日にして園児・児童を訓練に参加されました。児童はスリッパづくりなどに関心が高かったようでした。



射水市総合防災訓練・金山会場

## 射水市太閤山地区にて 防災講座 DIG、HUG の取り組み

DIG（災害図上訓練）、HUG（避難所運営訓練）は、災害を想定してのイメージ訓練として大変効果的です。

射水市太閤山地区では、昨年の DIG に引き続き中太閤山地区（7 月 13 日）で HUG、南太閤山地区（10 月 12 日）で DIG の訓練が行われました。



中太閤山公民館での HUG(避難所運営訓練)



今後、地域でこのような訓練が増えるに伴い、防災士会に対して指導・協力要請が増えてくると思われます。

## 出前講座勉強会

『医療の視点から見た大規模災害について』

7 月 26 日、富山国際学園サテライト・オフィスにおいて第 1 回例会を兼ねた出前講座勉強会が行われました。講師の野田防災士（医師）から、富山医療圏の救急・夜間の医療体制、富山市の急患センターの概要説明を受け、発災時の救急医療について一次救急、二次・三次救急の役割や想定について詳しく説明がありました。



野田防災士

県内には、基幹災害医療センター（富山大学病院、富山県立中央病院）、地域災害医療センター（黒部市民病院、富山市民病院、日本赤十字病院、高岡市民病院、砺波総合病院）が設置されており、発災時には、これらの医療センターへ患者搬送されています。



一方、県民にとって一番身近である開業医は、発災直後は、①医療が専門分野別に分化（内科医や整形外科等）が進んでいること、②医薬品のストックが限られていること、③調剤薬局の稼働が不透明なことなどから、被災者を十分に診ることは困難であろうとの見解でした。

また、静岡市の医療対応では、地域の診療所は閉鎖し、災害時救護所へ出向するケースが紹介されました。

最後に、救命救急における By Stander CPR（救命システムに入っていない人によって行われる心肺蘇生）の重要性について、データを駆使して分かりやすく講義していただきました。

## 防災落語を楽しむ



例会では防災落語も披露されました。咄家は富山のアマチュア落語家のスーパーアイドルで 2011 年に公開された富山が舞台の「RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ」の映画の方言指導を務められた越中家漫欽丹さん。富山弁での防災落語であり場内大爆笑でした。

災害に備えて、笛（ペッペ）とミニ LED ライトを身に付けておくことの大切さについても語られました。

新入会員  
自己紹介

防災は、他団体とタイアップ  
そして、地道に根気よく

防災士(富山市) 島崎 定則

私は平成24年度より婦中熊野地区(1,103世帯・3,283人)の自主防災会の会長を任されました。東日本大震災から1年が過ぎようとしていました。日本全国が防災・減災に向けて活動が活発になり、正直大変な職を引き受けてしまったと思えました。当地区は過去これといった災害もなく全くと言っていいほど防災に関心がありません。能登沖の地震や東日本大震災も対岸の火事といった感覚です。



どうすれば防災に関心を持って頂けるのかと思案しているところに防災士養成の案内が届きました。何か資格を持っている者が話せば少しは耳を傾けてくれるのではと思いつつ受講致しました。おかげさまで富山県防災士会に入会し微力ながら活動のお手伝いをさせて頂いています。

昨年度は市の助成金や各種団体からの援助もあり防災倉庫・防災資材も購入する事が出来ました。又、今年の熊野地区の防災訓練では社会福祉協議会さんとタイアップし要援護者宅の確認作業を実施、自衛隊富山地方協力本部の救助関係のパネル展示、婦中消防署のAED取扱講習、応急手当、日赤奉仕団・婦人部による炊き出し等盛り沢山の訓練が出来ました。リーダー研修会では災害図上訓練



図上訓練等を実施

(DIG)も実施、避難経路の確認や要援護者宅の地図への落とし込みも致しました。来年度はもっと色々な団体とタイアップした活動をしていこうと計画を練っています。

防災の仕事は地道に根気強く進めるしかありません。皆様のご助言よろしくお願ひ申し上げます。

防災施設見学会を実施  
立山カルデラ砂防博物館・猪谷関所館 など

今年の施設見学会は、10月2日(木)16名(参加枠限定)の参加で立山カルデラ砂防博物館と神通川流域で行われました。

安政5年(1858年)の跡津川断層に起因する飛越大地震による土砂災害や、現在も行われている砂防事業の大切さを確認する趣旨の見学会開催でしたが、今回も予定していた立山カルデラ内の砂防現場は、前日に悪天候が予想されるとのことで中止となり、立山カルデラ砂防博物館と神通川流域の施設見学に変更となりました。

立山カルデラ砂防博物館では、菊川学芸員から御嶽山噴火に関連して、「立山で噴火が起きてもおかしくはない。地獄谷でも水蒸気爆発が起き、大きな噴火につながる可能性は否定できない」との説明がありました。

午後からは、神通川流域の猪谷関所館で開催中の特別展「関所の番人が綴った安政の大地震の実相」について、展示されている当時の記録文書による神通川領域の被害状況について加藤館長に解説して頂きました。



(尚、今回訪問した時の写真は関所館の玄関に掲示されています)

最後に、富山県立「イタイイタイ病資料館」では、神通川流域で起きた日本の四大公害病のひとつ・イタイイタイ病の恐ろしさと克服の歴史を学び、環境と健康を大切に作る地域づくりの取り組みを知ることができ、大変、有意義な見学会となりました。(記 黒畑)

日本防災士会10周年記念行事が盛大に開催



浦野理事長

10月18日に千代田区永田町の星陵会館において前田東京都副知事、古川日本防災士機構会長を来賓に迎え標記行事が盛大に開催され、小杉会長が出席しました。

本会理事長浦野修氏は「…果して防災士会の活動が社会的に認知されるのだろうか」と半信半疑の中で日本防災士会を立ち上げたが、今では社会的に行政や地域社会から大きな認知を受けるようになった。また、「これからは、一人の犠牲者を出さないという強い思いで力を合わせ、最善を尽くすことが、我々の新たな使命であると思う」と力強く語られた。

12月研修会のご案内

- 日時 12月6日(土)午後4時～5時30分
- 場所 ウイング・ウイング高岡(予定)
- 講師 NHK富山放送局キャスター  
気象予報士 木地智美さん



- \* 防災士でもある木地さんから楽しいお話が聞けます。演題など詳細は後日ご案内します。
- \* 終了後に忘年会を予定していますので、引き続きご出席ください。

《編集後記》

広島のとちぎ土砂災害、北海道の大雨特別警報の発令など今年もまた災害の多い年です。新潟中越地震から10年経過し、防災士の役割が増していると痛感します。